



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	日本の大学におけるアルコール飲料の取り扱いと適正飲酒教育：酒販売及び提供に関する生協の役割を探索
Author(s)	眞崎, 睦子
Relation	第6回生協総研賞研究奨励助成事業研究論文集. pp. 1-13.
Issue Date	2010-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/51120
Type	journal article
File Information	coop6_1.pdf



日本の大学におけるアルコール飲料の取り扱いと適正飲酒教育
－酒販売及び提供に関する生協の役割を探る

眞崎睦子

(北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院／教育学院)

2010年1月

日本の大学におけるアルコール飲料の取り扱いと適正飲酒教育

一酒販売及び提供に関する生協の役割を探る

眞崎睦子（北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院／教育学院）

はじめに

日本の購買生協には四つの生協がある。地域住民により組織されている「地域生協」、職場単位で組織されている「職域生協」、小・中・高校教職員による「学校生協」、そして本稿で注目する「大学生協」である。大学生協は大学の学生、院生、留学生、教職員によって組織され、書籍、学用品、食品、日用品などの供給、食堂事業、共済事業などを行っている。『大学生協ハンドブック』（2008）では、その使命として以下の4つをあげている。

- 1) 学生・院生・留学生・教職員の協同で大学生活の充実に貢献する。
- 2) 学びのコミュニティとして大学の理念と目標の実現に協力し、高等教育の充実と研究の発展に貢献する。
- 3) 自立した組織として大学と地域を活性化し、豊かな社会と文化の展開に貢献する。
- 4) 魅力ある事業として組合員の参加を活発にし、協同体験を広めて、人と地球にやさしい持続可能な社会を実現する。

これらの使命は、『大学生協 REPORT2009』の表紙では、「協同」、「協力」、「自立」、「参加」という4つのキーワードで表されている。このような理念を掲げることこそが、大学生協を、各地の大学キャンパスでビジネスを展開する企業による出店やコンビニの参入と異なる組織にしていると考えられる。前出の『大学生協ハンドブック』には次のような一節がある。

ある特定の誰かのための組織でもなく、また特定の誰かの利益のために運営されている組織でもありません。組合員一人ひとりが主人公なのです。そして、生協が生協らしく活動していくためには、組合員の参加が不可欠となります¹。

これは大学生協に限らず、あらゆる「生活協同組合」の真髄といっても過言ではない。そして、大学生協の場合、ここでいう「組合員一人ひとり」の多くが、組合員として出資した大学生である。本稿では、全国大学生生活協同組合連合会に加入する228大学のうち、北海道大学を分析の中心に据える。そして、学部学生、すなわち北海道大学生生活協同組合の組合員が、大学生協でも販売・提供されている酒をどのような意識をもって眺めているかをあぶりだす。そこから、日本の大学生協によるアルコール飲料の取り扱いについてあるべき姿を見出し、さらに、大学生協、ひいては生協全体に何が求められるのか、その役割を探る。

1. 大学生を取り巻く酒

日本では、今のところ、未成年の飲酒は禁じられている。しかし、この「未成年」に大学生という看板がついた途端に、未成年の周辺には、新入生歓迎コンパ、サークルのコンパ等、酒席に参加する機会が大学の内外に公然とあふれ出すのが現状である。酒は仲間との楽しいコミュニケーションのために欠かせない道具であるにとらえている未成年の大学生も少なくない。大学生になりさえすれば、飲酒

¹ 全国大学生生活協同組合連合会（2008）『大学生協ハンドブック—大学生協を深く理解したい人に』、全国大学生生活協同組合連合会、p.17

が問題になることは、飲酒ゆえの事件や事故に発展しない限り、ほとんどない。その一方で、ひとたび飲酒事故等が起ると、その被害は、一生に渡り影響を及ぼすこともあり、決して小さくない。

例えば、北海道大学では、1984年から1995年までに、7名の学生が飲酒事故により命を失っている。ここ数年の例を眺めてみよう。2007年5月には北海道大学のあるサークルの学生110人が札幌市内の花見客で賑わう公園で飲酒し、9人が急性アルコール中毒となり、救急車で北海道大学付属病院に運ばれた。9人中8人は未成年であった。副学長名で出された学内掲示(2007年5月17日)によると、「半数は意識不明の危険な状態であり、搬送が遅れた場合は死に至る可能性があったというきわめて深刻な状況」だったという。2009年に起こった京都教育大学の学生による暴行事件が酒席で起こったということも記憶に新しい。被害学生は酩酊状態にあったという。2008年4月には一橋大学の男子学生が上級生らによる飲酒の強要により死亡、2008年10月、同大学は飲酒を強要した男子学生を退学、同席学生4人を無期停学、11人を訓告処分とした。また、管理運営責任者として副学長の一人が辞任するなど、未成年・成年の学生が混在する大学という場では、教職員も含めて、十分な、飲酒に関する教育を受けていないがゆえの不幸な飲酒事故があとを絶たない。

このように大学生の楽しいコミュニケーションの場における道具であり、しかし、場合によっては危険な事故の背景に登場する道具である酒を、大学生協が提供し、時には販売するといった状況があり得ることを考えると、大学生協はどのような役割を担うべきだろうか。

ここで、大学生協の酒販売及び提供について東京大学(以下、東大)と北海道大学(以下、北大)の現状を眺めてみよう。

1.1 「東京大学消費生活協同組合」一本郷キャンパス

1946年に設立された東京大学消費生活協同組合(以下、東大生協)は供給高94億の事業規模をもつ日本有数の大学生協である²。戦後、必要最低限の物資を東大関係者に供給することから始

まり、今では、東大名入り商品から得られる剰余金を還元するなどの形で大学組織及び組合員を直接間接にサポートしている。キャンパス別に「本郷・弥生・浅野」、「駒場・駒場Ⅱ」、「柏・医科研・天文台」の三つのグループに大別され、このうち酒類が販売されているキャンパスは、本郷、浅野、医科研、天文台の4箇所である³。駒場キャンパスでは酒の直接販売・提供は行われていない。未成年の学生が多く通うことがその理由ではないか、と現在の東大生協関係者は語る。例外的に「オードブル・料理配達サービス」があり、「ビール等の酒類やソフトドリンクの配達もいたします」と東大生協のウェブサイト、「パーティ・オードブル承ります」に書かれている⁴。

本稿では赤門で知られ、観光客や地域住民の利用も多い、本郷キャンパスの「銀杏メトロ食堂」と「本郷第二購買部」を紹介する。本郷キャンパスには学部3年次以上の学生が通っているため、基本的に未成年の学生はいないとされる。本郷キャンパス内の4つの食堂はパーティコンパから学会の懇親会まで、組合員のニーズに合わせて様々な対応を行っている。中でも「銀杏メトロ食堂」⁵(資料1・資料2)では、午後3時から閉店の午後8時まで、利用者に酒類を提供している。入り口のショーケースには、以下の6種類が並んでいる⁶。

びんビール大瓶	380円	(アサヒ生スーパードライ)
発泡酒	170円	(キリン端麗生 アルコール約5.5%)
缶ビール	270円	(アサヒドライ生 350ml)
生ビール大	320円	(紙コップには「SAPPORO」の文字)
生ビール小	220円	(詳細は不明)
サワー	120円	(詳細は不明)

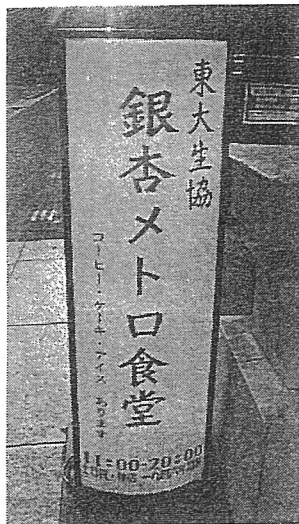
² <http://www.utcoop.or.jp/riji/vision.html> 「東大生協ビジョン」より(2009年11月27日アクセス)以下、注で示すアクセス日は最終アクセス日である。

³ このうち、天文台は国立天文台である。

⁴ <http://www.utcoop.or.jp/party/index.html> 「パーティ・オードブル承ります」(2009年11月27日アクセス)

⁵ 本郷キャンパスには「軽食・喫茶メトロ」、「東大生協銀杏メトロ食堂」など、様々な表示がみられた。東大生協のサイトにも様々な表記がなされていて、どれが正式名称なのかは不明である。(資料1・資料2)

⁶ 2009年3月7日現在。



資料1



資料2

本郷第二購買部は本郷キャンパス内の「コンビニエンスストア」の外観を擁し、取り扱い品目は弁当、菓子、飲み物から日用雑貨までを取り揃えている。「東大馒头」など、「東大グッズ」目当ての観光客も多い。人気は赤白がそろう、東大マーク入り化粧箱付きの東大ワインである⁷（資料3）。

ワインの他にも酒類は販売されているが、一般のスーパー、小売店と同様に、「これはお酒です」、「未成年者の飲酒は法律で禁止されています」の表示が随所に見られる。店長の柏木浩樹氏によると、観光客、中学生・高校生といった修学旅行者の利用も多く、未成年者には「たとえ、家族への土産だと言われても販売はしない」そうである。レジには以下のような文言を記したメモが貼られている。

酒類の販売に関しては20歳以上の方に限らせていただきます。たとえご両親へのお土産であっても販売できません。年齢確認が不確かな場合は身分証などで確認してください。

このメモはレジを担当する生協職員に宛てたものである。

1.2 「北海道大学生協同組合」—札幌キャンパス
北海道大学生協同組合（以下、北大生協）の設立は1947年6月である。これに先駆けて学生

品名	価格
東京大学マーク入り化粧箱付	5,700円(税込)

地方配送承ります。

①申込方法・配送料金は裏面にございます。
②東大ワイン専用ケースにてお届けします。

資料3

生活の救済を目的とした「学友会厚生部」が組織されていたが、これを広く学内の教職員及び学生のための組織としてのスタートであった⁸。『北大生協創立五十年史』の年表をたどると、1948年4月にたばこ販売を開始しているが、酒類の販売はこの41年後、1989年に開始となっている。しかし、1989年に酒類の販売を開始したのは正確には北大生協ではなかった。北大生協の専務補佐、今川則生氏によると、「1989年の売り場拡張計画に伴い、北大生協の資産である土地・建物内に、ある酒店がテナントとして入店した」とのことである。この店は4坪くらいの規模であったという。生協以外の店舗が生協の建物内に开店する背景には、酒類の販売が免許制であることと無縁ではない⁹。北大生協が独自に酒類販売免許を取得し、

⁸ 北大生協創立五十周年記念史編集委員会 編 (2004)『北大生協創立五十年史』、北海道大学生協同組合、pp.140

⁹ <http://www.nta.go.jp/shiraberu/senmonjoho/sake/menkyo/tebiki/mokuji2.htm>「国税庁：酒類の免許」(2009年11月28日アクセス)

¹⁰ 北大生協専務補佐、今川則生氏談。北海道大学生協同組合宛ての「酒類販売免許通知書」(札幌酒第202号)の写しをご提供いただいた。これは免許更新時のもので、日付は平成18年6月16日となっている。

⁷ 赤白ともに750ml、3,150円、赤白2本セット、5,700円。

ここで北大特有の飲酒文化と最近オープンした新しい食堂についての具体例を紹介する。

「ジンパ」とは、主に北海道で使用される用語で、ジンギスカン・パーティの略である。早春の札幌キャンパス内ではあちこちから教職員・学生らの会話を楽しむ声とジンパの煙が立ち昇り、北大の風物詩の一つともなっている。ジンパで使用した炭等の後片付けに関する注意表示や、北大関係者以外のもが学内でジンパをすることを禁じる看板も見られる（資料4）。北大生協では、北大の伝統あるレクリエーション、ジンパを支えるため、古くから教職員学生に対して七輪の貸し出しなどを行ってきた。これにジンギスカン用のラム肉とアルコール飲料の需要があることを見出し、北大内の食堂等各店において、ジンパセットのちらしを置くようになった（資料5）。資料5の「ジンパセットお申込み用紙」によると、4種のセットのうち2つにビールがついている。またオプションが用意されており、おにぎりと樽生ビールである。野菜は各自持ち込むそうである。酒類なしでのジンパはほとんどあり得ないといっている。

「レストランポプラ」は北大の北キャンパスエリア（札幌キャンパスの北部）に2008年12月にオープンした新しいレストランである。その外観や高い天井の高級感ある室内装飾はおよそ「生協」のイメージとはかけ離れている。利用者の多くが大学院生、研究員、教職員ということ、学外から

¹² <http://www.hokudai.seikyounet.jp/>「まるごとガイドマップ」には多くの店舗がそのサービスごとに紹介されている。(2009年11月28日アクセス)



資料 4

ジンパセットお申込み用紙

はるにれ食費もしくは無宿の住居食堂各店にご来店いただくか、FAX 717-0227にてご予約ください。
はるにれ食費にご来店以外のご予約の場合は、後ほどご確認のお電話を差し上げます。
詳細は『はるにれ食費』まで、お問い合わせください。 TEL: 717-0227 内線: 5133

北大生協のシンジカン、おなまえ、ジンギスカン(信濃産)は、全国で唯一の「食肉加工工場」です。新鮮な牛肉を毎日仕入れ、独自の加工技術により、安全・安心・おいしい製品を作っています。

お申込み日		月	日	お申し込み時		月	日	時
代表者	団体名			棟	ご注文ください 〈学内シンパ利用可能時間〉 月～金：17:00～21:00 土日祝：10:00～21:00			
	おなまえ			棟				
	ご住所	区	番	丁目	号			
	携帯電話			開催場所	開催時間			
ご注文文		セット名		総注文数	小計			
シラムジンギスカン + ビール		5,500円						
シラムジンギスカン		4,200円						
ジンギスカン(信濃のお肉) + ビール		5,500円						
ジンギスカン(信濃のお肉)		4,200円						
オプションメニュー	品名	販売価格/枚	ご注文数	小計				
	黒ラベル	7,000円						
	クラシック	7,000円						
	梅	100円						
	おにぎり	100円						
総合計金額								
お客様控えは、お振込用紙とともにお取りの際にこちらへ提示ください。								
申込調書お名前		課	申込日	月	日	時	分	秒
申込日時		月	日	時	分	秒		
品名		販売価格/枚	ご注文数	小計				
黒ラベル		7,000円						
クラシック		7,000円						
梅		100円						
おにぎり		100円						
ご注文ください 〈シンパ利用可能時間〉 月～金：17:00～21:00 土日祝：10:00～21:00				■受け渡し時間 平日11:00～17:00 土曜日11:00～13:30				
※本協会のシンジカン、おなまえ、ジンギスカンは、全国で唯一の「食肉加工工場」です。新鮮な牛肉を毎日仕入れ、独自の加工技術により、安全・安心・おいしい製品を作っています。								
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 北大生協 TEL/FAX 011-747-0227								

資料 5

の訪問者が多いということから大学関係者から酒類の提供を求める要望があったという。これに応じて提供されることになったのが、ビールである。北大のホームページには「アルコール飲料等の提供も」という文字がみえる¹³。提供されることになったのは、アサヒのスタイニービール (334ml)

¹³ http://www.hokudai.ac.jp/bureau/news/jihou/jihou0812/657_44.htm 「お知らせ 北キャンパスにレストラン「ポブラ」オープン (2009年11月28日アクセス)」



資料 6

である(資料6)。すでに書いたように、北大内の生協店舗では生協会館店をのぞくと酒類の販売ができない。ポプラで行っているのは「提供」である。ポプラのレジ担当者は昼の混雑する時間帯(午前11時~午後2時)をのぞくと通常1名である。この1名がレジまわりの作業とビールの提供を短時間でこなさなければならない。そこで選ばれたのが、開栓がもっとも簡単であったスタイニービールであるとお話くださったのは北大生協食堂部の河野厚司氏である。ビールの提供時間は午後2時から閉店の午後6時までとなっている。そのせいだろうか、2008年12月のオープン時から、筆者が訪問した2009年2月末まで、一ヶ月に10本ほどの注文しかなかったそうである。あるいは何った季節も関係しているかもしれない。ポプラでは未成年の学生の利用はまずない、ということから年齢確認は特にしていないそうである。ポプラのパーティちらしには、飲み放題が「1,500円から」とある(資料7)。

1.2.3 北大生協「工学部食堂」

さて、ポプラに続き2009年4月にリニューアルオープンしたのが、札幌キャンパスの丁度真ん中あたりに位置する工学部食堂である。ポプラ同様のビューフェスタイルで、メニュー90品、座席数390席を誇る。夜遅い工学部生のために午後8時半まで営業していることも注目すべきであろう。工学部らしく、「シャリ弁ロボ」なるものがご飯をよそってくれる。未成年者を含む学生の利用が多いことから、ここでは酒類を一切提供していない。ただし、東大の例にもみられるように、イベント時には「たる生」ビールを提供している。先に記した「ジ

北キャンパスの新食堂

レストラン ポプラ

ご宴会・懇親会にもどうぞ!

新しくできた食堂
北キャンパスの皆様の憩いの場

ご希望にあわせたメニュー構成を提案いたします。
お飲み物も各種ございます。飲み放題は1,500円から

50名様程度まで
OK

各種ケータリング(配達)も
ご利用いただけます。
御人は、レストランポプラまでご連絡下さい。
通って担当よりご連絡いたします。

＜注意事項＞
ご利用の際は、北キャンパス本部への申請が必要です。
代金等は北海道大学に支払われておられる必要があります。

＜レストランポプラ 1F 食堂＞
電話&FAX: 011-737-7214
学内内線: 9058
店長 堀山 智秀

資料 7

ンパセットお申込み用紙」も食堂内におかれていた。

2. 「飲酒に関する大学生の意識調査」

さて、このような環境で学ぶ大学生らは、大学生協組合員の多くを占めているが、飲酒に関してどのような意識をもっているのだろうか。ここで、筆者が行った意識調査の結果の一部を紹介したい。本稿で紹介するのは北海道大学の主題別科目「社会の認識」の一つとして筆者が担当している講義、「社会問題としての飲酒」(資料8)の受講者を対象に行ったものである。

2.1 無記名アンケート「飲酒に関する大学生の意識調査」(資料9)

この調査を実施したのは、講義初回の授業開始時である。受講者は特に教室で飲酒について何も学んでいない状態であった。2009年度の回答者数は63名であった。その詳細をアンケートの設問の内容とともに示す。

- 1) 4/13 無記名アンケート「飲酒に関する大学生の意識調査」/ガイダンス
- 2) 4/20 無記名アンケート(未送寄)
*14 (皆さん)のお話
過去の飲酒事故について考える
①お酒を飲むとどうなりますか?
②どこから(どのような行為・言動など)が「飲酒」だと思えますか?
③あなたにとってアルコール依存症のイメージはどういうもの(人)ですか?
④あなたのご家族(あるいは友人、恋人など)がアルコールに依存している様子が受け取られた場合、あなたはまず何をしますか?
(受講者による発表) 新酒会・AA・アラノン
- 4) 5/11 北海道大学看護自治会飲酒事故防止対策特別委員会
5) 5/18 *ゲストスピーカーのお話(札幌道新酒会・家族会)
6) 5/25 映像資料とアルコール依存症①(受講者による発表)
7) 6/1 映像資料とアルコール依存症②(受講者による発表)
8) 6/8 「酒類の広告・宣伝及び酒類容器の表示に関する自主基準」
9) 6/15 資料収集員(自由研究日)
10) 6/22 *ゲストスピーカーのお話(札幌道新酒会)
11) 6/29 酒類製造販売企業による適正飲酒教育について考える(受講者による発表)
12) 7/6 *ゲストスピーカーのお話(アサヒビール株式会社 社会環境推進部)
13) 7/13 2009年度「北学生と飲酒」アンケートの結果を分析
14) 7/27 (受講者による発表)
15) 8/3 期末試験

第15回 第2 次の①②③から一つを選択すること

- ① 2009年4月～6月に放映された酒類テレビコマーシャルを2つ選び、「酒類の広告・宣伝及び酒類容器の表示に関する自主基準」に照らし合わせて分析を行う。
- ② 2009年4月以降に販売された酒類の容器を2つ選び、「酒類の広告・宣伝及び酒類容器の表示に関する自主基準」に照らし合わせて分析を行う。*未成年の受講者は研究目的であっても飲酒しないように注意すること。
- ③ 酒類製造販売企業による適正飲酒教育パンフレットを2つ選び、その内容について分析を行う。
- ④⑤⑥いずれも字数：800字～1,200字程度、用紙サイズ：A4 1枚にまとめる
学生番号・氏名を明記して6月22日授業開始前に提出すること。

1:15に配布予定

4:45に配布予定

資料8

Q1. あなたの身分(学年)は?

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	院生	その他
人数	25	31	2	1	4	0
%	39.7	49.2	3.2	1.6	6.3	0.0

Q2. よろしければ年齢を()内にご記入ください

年齢	18	19	20	21	22	23以上	無回答
人数	19	16	18	4	1	3	2
%	30.2	25.4	28.6	6.3	1.6	4.7	3.2

Q3. あなたの性別は?

性別	男性	女性	その他
人数	45	18	0
%	71.4	28.6	0.0

Q4. あなたはアルコール飲料(日本酒、ビール、ウィスキー、焼酎など)を飲んだことがありますか?

選択肢	はい	いいえ	無回答
人数	54	9	0
%	85.7	14.3	0.0

未成年者は回答者の半数を超えることが確認できる(55.6%)。しかしながら、85.7%の回答者がアルコールを飲んだことがあると答えている。また、女性が少ないことはそのまま北大の学生の男女比にもつながる。

Q5. あなたは定期的にアルコール飲料を飲んでいますか?(対象者数:54人)

選択肢	はい	いいえ	無回答
人数	20	34	0
%	37.0	63.0	0.0

定期的にアルコール飲料を飲んでしていると答えた37%の回答者20名のうち、9名は未成年の学生であった。また、女性5名も含まれている。その頻度は週に1度が50%で、週に2,3回が30%であったが、「毎日」と答えたものが1名いた。

Q7. あなたはなぜアルコール飲料を飲むのですか?(対象者数:54人)

理由	選択者数	%
習慣になっていて特に理由はない	3	5.6
アルコール飲料がないと眠れない	1	1.9
いやなことを忘れるため	3	5.6
味が良い・好きだから	20	37.0
友人らとの会話を楽しむ材料として欠かせない	26	48.1
その他	0	0.0

半数近くが「友人らとの会話を楽しむ材料として欠かせない」と答えるのは毎年のことである。

次に、大学生が飲酒によってどのような影響を受けているかを確認したい。

Q8. あなたは飲酒(アルコール飲料を飲むこと)によって次のようなことを経験したことがありますか?(複数回答可)(対象者数:54人)

分類	選択者数	%
頭痛	30	55.6
嘔吐	29	53.7
一時的に記憶を失う	22	40.7
立ち上がること・歩行などが困難になる	18	33.3
二日酔いで学校に遅刻する	6	11.1
二日酔いで学校を欠席する	6	11.1
暴言を吐く	2	3.7
暴力を振るう	0	0.0

飲酒に関する大学生の意識調査 (無記名アンケート) * 該当する項目をマルで囲んでください。

01. あなたの身分 (学号) は? a. 1年生 b. 2年生 c. 3年生 d. 4年生 e. 院生 f. その他 ()
02. よろしければ () 内に年齢をご記入ください。 ()
03. あなたの性別は? a. 男性 b. 女性 c. その他 ()
04. あなたはアルコール飲料 (日本酒、ビール、ウィスキー、焼酎など) を飲んだことがありますか? a. はい b. いいえ * いいえと答えた方は 09 へお進みください。
04. で「a. はい」を選んだ方におたずねします。
a. あなたは定期的にアルコール飲料を飲んでいますか? a. はい b. いいえ * いいえと答えた方は 07 へお進みください。
b. 頻度
a. ほぼ毎日 b. 週に2-3回 c. 週に1回 d. その他 ()
07. あなたはなぜアルコール飲料を飲むのですか? (複数回答可)
a. 習慣になつていて特に理由はない b. アルコール飲料がないと眠れない c. いやなことを忘れるため d. 味が良い・好きだから
e. 友人らとの会話を楽しむ道具として欠かせない f. その他 ()
08. あなたは飲酒(アルコール飲料を飲むこと)によって次のようなことを経験したことがありますか? (複数回答可)
a. 頭痛 b. 嘔吐 c. 一時的に記憶を失う d. 立ち上ること・歩行などが困難になる
e. 二日酔いで学校に遅刻 f. 授業を欠く g. 学力を失う h. 努力を失う
09. あなたは飲酒を避避されたことがありますか? a. はい b. いいえ * いいえと答えた方は 012 へお進みください。
09. で「a. はい」を選んだ方におたずねします。
010. 飲酒を避避された結果、あなたはもう a. 断った b. 少量飲んだ c. 減量されるまでに飲んだ d. その他 ()
011. あなたは飲酒を避避したのは次のうちどれでしたか? (複数回答可)
a. 大学の先輩 (男性) b. 大学の先輩 (女性) c. 大学の友人 (男性) d. 大学の友人 (女性) e. 大学の後輩 (男性) f. 大学の後輩 (女性)
g. 学外の先輩 (男性) h. 学外の先輩 (女性) i. 学外の友人 (男性) j. 学外の友人 (女性) k. 学外の後輩 (男性) l. 学外の後輩 (女性)
m. 大学の教員 (男性) n. 大学の教員 (女性) o. 家族・親族 (男性) p. 家族・親族 (女性) (具体的に:)
q. その他 ()
012. あなたは飲酒を避避したことがありますか? a. はい b. いいえ * いいえと答えた方は 015 へお進みください。
012. で「a. はい」を選んだ方におたずねします。
013. あなたが飲酒を避避した結果、その相手はどうしましたか? a. 断った b. 少量飲んだ c. 減量されるまでに飲んだ d. その他 ()
014. あなたが飲酒を避避したのは次のうちどれでしたか? (複数回答可)
a. 大学の先輩 (男性) b. 大学の先輩 (女性) c. 大学の友人 (男性) d. 大学の友人 (女性) e. 大学の後輩 (男性) f. 大学の後輩 (女性)
g. 学外の先輩 (男性) h. 学外の先輩 (女性) i. 学外の友人 (男性) j. 学外の友人 (女性) k. 学外の後輩 (男性) l. 学外の後輩 (女性)
m. 大学の教員 (男性) n. 大学の教員 (女性) o. 家族・親族 (男性) p. 家族・親族 (女性) (具体的に:)
q. その他 ()

015. あなたはアルコール飲料を飲んでいる人と同量あるいは友人等、同程度までで同量したことがありますか?

- a. はい b. いいえ * いいえと答えた方は 017 へお進みください。
016. で「a. はい」を選んだ方におたずねします。
その場合アルコール飲料を飲んでいる人に関して、あなたが飲んでいるのは次のうちどのようなことですか? (複数回答可)
a. 何も気にならない b. におい c. 自分への賞賛 d. 他者への賞賛 e. 自分への能力 f. 他者への能力
g. その人の健康 h. その他 ()

017. あなたはアルコール飲料を飲んでいる人、あるいは頻回状態の人と、電車・地下鉄などの公共の交通機関内で一緒になったことがありますか?

- a. はい b. いいえ * いいえと答えた方は 019 へお進みください。
017. で「a. はい」を選んだ方におたずねします。
その場合アルコール飲料を飲んでいる人、あるいは頻回状態の人に関して、あなたが飲んでいるのは次のうちどのようなことですか? (複数回答可)
a. 何も気にならない b. におい c. 自分への賞賛 d. 他者への賞賛 e. 自分への能力 f. 他者への能力
g. その人の健康 h. その他 ()

019. あなたはAM (Alcoholics Anonymous) という組織について聞いたことがありますか?

- a. はい b. いいえ
020. あなたはアラノン (Al-Anon) という組織について聞いたことがありますか?

- a. はい b. いいえ
021. あなたは匿名会という組織について聞いたことがありますか?

- a. はい b. いいえ
022. あなたはアルコールが薬物の一種であると認識していませんか?

- a. はい b. いいえ
023. あなたは過去に学校で飲酒に関する教育を受けましたか?

- a. 受けたことがない b. 受けたかどうか思い出せない c. 小学校で受けた d. 中学校で受けた e. 高校で受けた
f. その他 ()

024. あなたは過去に家庭で飲酒に関する教育を受けましたか?

- a. 受けたことがない b. 受けたかどうか思い出せない c. 小学生のとき受けた d. 中学生のとき受けた e. 高校生以上のとき受けた
f. その他 ()
025. あなたは学校(小・中・高)で飲酒についての教育を行うべきだと思いませんか?

- a. はい b. いいえ * いいえと答えた方は 028 へお進みください。
025. で「a. はい」を選んだ方におたずねします。
026. 飲酒に関する教育は次のうちどの段階で始めるべきだと思いませんか?
a. 小学校低学年 b. 小学校中学年 c. 小学校高学年 d. 中学校1年 e. 中学校2年 f. 中学校3年
g. 高校1年 h. 高校2年 i. 高校3年 j. その他 (具体的に:)

027. 026. で選んだ項目についてその理由をご記入ください。

- 理由:
028. もしよろしければ飲酒に関するご経験、ご意見、ご感想などを自由に記入してください。

このアンケートの結果は学内で教員・資料として活用させていただきます。ご協力ありがとうございます。

© Mitsuko MITSUKI 2009

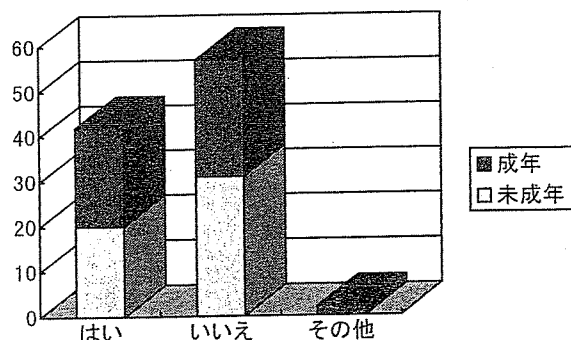
上の選択肢のうち、「頭痛」、「嘔吐」、「一時的に記憶を失う」、「立ち上がること・歩行などが困難になる」は、飲酒が回答者の身体に及ぼす影響である。特に最近の大学生の飲酒事故・事件を思い出すとき、これらの影響を認識した上で悪用しているようなケースも目立つ。また、飲酒経験があるもののうち3割以上がこのいずれかの状態を経験していることは見逃すことができない。さらに、飲酒ゆえに「学校に遅刻・欠席」するような、大学生活に影響を及ぼす事態が生じている。「暴言」「暴力」に至っては、数字が小さいとはいえ、被害者を生み出していることを考えると、あってはならない。これらが、同じ回答者が「会話を楽しむために」選んだ飲酒という行為ゆえに生じていることも重要である。

Q9. あなたは飲酒を強要されたことがありますか？

選択肢	はい	いいえ	その他
人数	19	44	0
%	30.2	69.8	0.0

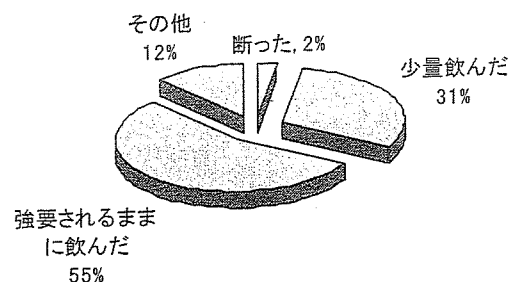
実はこの調査を開始して初めて「飲酒を強要されたことがある」と答えたものが40%を下回る結果となった。喜ばしいとことであったが、授業で「強要の定義」について議論した後に、再度調査を行ったところ、これが半数を超えてしまったことは残念である。以下に示すのは2007年4月に行った同調査の結果である（資料10、資料11）。飲酒の強要をされた大学生のうち約半数が未成年者であった。また、一旦強要されると多くの学生が飲酒に応じていることも確認できる。

あなたは飲酒を強要されたことがありますか？



(資料10)「飲酒に関する大学生の意識調査」(2007年)より(真崎) 回答者の41.8%が「はい」と答えた。このうち約半数が未成年の学生である。

飲酒を強要された結果、あなたはどうしましたか？



(資料11)「飲酒に関する大学生の意識調査」(2007年)より(真崎) 「断った」と回答した学生はわずか2%である。半数を超える学生が強要されるままに酒を飲み、約3割の学生が少量とはいえ酒を飲むことに応じている。

強要の主は、大学の先輩と大学の友人が多くをしめる。毎年のように、タテの人間関係と、ピア・プレッシャーにとまどう大学生の姿が如実に浮かび上がる。さて、同調査では毎年、「あなたはアルコールが薬物の一種であると認識していましたか？」という質問をしている。これについては、回答者に対して、「アルコールは薬物の一種である」と教示するものであり、アンケートの文言としては望ましくない。しかし、毎年約半数の回答者が「いいえ」と答えることを重く受けとめるべきである。2009年度の調査に戻ると、50.8%の学生が「いいえ」を選んだ。

海外の学会等で調査結果を発表する際、最も驚かれるのは紹介してきたような結果ではない。毎年、約9割の学生が「アルコール依存症者による自助組織」及び「アルコール依存症者の家族・友人らによる自助組織」について「聞いたことがない」と答えることである。筆者はこのような実態を受けて、毎年、何が日本社会における飲酒を取り巻く「問題」なのか、そのヒントを受講者自らがつかみとることができるような講義をデザインしている。具体的には、地域の自助組織の方々をゲストスピーカーとして授業にお招きすることなどである。後述するが、受講者は、大学生協に出資している組合員であり、また、大学の内外で酒類の販売及び提供に触れる機会を数多く持つ消費者でもあることに留意したい。

2.2 大学内における酒の販売と提供について

次に「社会問題としての飲酒」の受講者が、4

月から資料8の授業予定に示したように受講を重ねていき、約3ヵ月後に大学内における酒類の販売と提供をどのように受けとめているかを調査した結果を以下に示す。この調査は2008年に開始した。毎回授業終了後に提出を求める「受講者による分析・コメント」の用紙の一部を利用して行ったもので、記名式である。2008年7月、2009年6月の回答者の声を、原文のまま、ここに紹介しよう。

(2008年7月14日実施 回答者57名)

1. 大学の中で、アルコール飲料を販売するのは、

a. いいことだ	9名	15.7%
b. よくないと思う	43名	75.4%
c. その他	5名	8.7%
2. 大学内の食堂などで、アルコール飲料を注文できるようにするのは、

a. いいことだ	5名	8.7%
b. よくないと思う	48名	84.2%
c. その他	4名	7.0%

1. の「理由」より：

○「いいことだ」 ×「よくない」 △「その他」

○別に悪いことではないと思う。問題は飲み方や飲む量であると思うから。

○いいことだ。タバコも販売しているので。

○気軽に飲み会ができるから。

○ジンパで飲んでいるのに売っていないのは矛盾している。

○土産物として日本酒等が北大でも売られているが、酒が好きな人々に対して最良の土産は酒だから。

○院生・教職員など成年の人もいるので全面禁止はできないと思う。

×飲みたい人は学外で買えばいい。学校に来てまで飲みたい理由がわからない。学問の場にふさわしくない。

×未成年がいるから。

×大学内でお酒を飲む必要性がまったくないので販売する必要はないと思う。

×飲酒によるトラブルが必ず起こると思うから。

×販売すると恐らく授業の合間に飲むことになる。身体への影響云々ではなく授業を受ける際、理解

度・集中度に支障をきたすと思う。

×学校は勉強をするところ。酔っ払いが構内にいると勉強できない。風紀が乱れる。

×自宅や居酒屋で飲めばいいと思うので。

×酒を買うときに学生証などで年齢を確認するのなら販売してもいいと思うが、そんな面倒なことは現実にはできないと思うのでよくないと思う。

×大学で薬物を販売するのはよくないと思う。

×アルコールが薬物の一種であることを学んだから。

×未成年者に購入の機会を与えることになってしまうため。

×未成年者が身分証で買えないとしても先輩に買ってもらう可能性がある。

×酔った人間が問題を起こす可能性があるから。「大学内で飲むな」とルールを決めても守られるとは思わない。

×大学に入ってはじけちゃった人たちが格好つけて飲んでふざけだすと周りに迷惑だから。

×教育機関内での飲酒を誘発するのは、よいことであるはずがないと思ったから。

×大学の中での販売＝生協だと思うのですが、生協だとコンビニよりもアルコール飲料が安く購入できてしまうので、気軽にお酒に手を出す人が増えて望ましくないとします。ただし、北大グッズの一つとしてのお酒は例外的に大丈夫だとも思います。「札幌農学校」(クッキー)のような…。

△(その他：休日などのみ販売) 授業のある平日販売はよくない。

2. の「理由」より：

○構内ならそんな量を飲まない。身分証を見せれば未成年に提供するミスはないと思う。

○食堂でアルコール飲料を販売することにより売り上げが伸び、他の商品の値段に還元できるため、飲酒する人もしない人も喜ぶから。

○成年も多いのでアルコール度数の低いアルコール飲料ならいいと思う。そこでつぶれるような人間はいないと思う。

○昼からOKとするのはどうかと思うけど、歓迎会で使うとか、そういう用途がはっきりしていて信頼できるものなら良いのではないだろうか。

×食堂など大勢集まりご飯を食べるところで飲酒されると、迷惑に思う人も多そうだから。

- ×授業に影響が出るのは明らか。
- ×未成年がいるから。
- ×酔った状態で授業に出てもいいということになるから。本人は良いかもしれないが他人に迷惑。
- ×大学内で事故の起こる可能性をなくすため。バイク通学禁止と同じように。
- ×食堂は居酒屋と違います。食堂では勉強している人や寝ている人がいるので、食堂での販売はよくないと思います。
- ×きちんと飲む場、飲まない場というのは分けないといけないと思う。
- ×学校のような公的な場で未成年者が飲酒をし得る環境をつくってはいけないと思う。
- ×酒を飲まなければ業務につけない、授業できない、受けられない、という者は、病院へ行くべきである。大学の食堂は空腹を満たす場所であり、飲み食いしてストレスを解消するための場ではないと考える。
- ×食堂が多く利用されるのは昼の時間であるので、そこで酒類を注文し飲酒すると、午後の授業に影響を及ぼすであろうと思うし、多くの学生が自転車を利用しているため、飲酒運転の数が増えると思われるから。
- ×勉強が嫌になり、食堂に行きお酒を飲み現実逃避をするということも起こりうるため。
- ×酒が入ると理性を失って何をするかかわからないし、ただでさえ混む食堂がますます混むと思うから。
- ×お昼から飲酒すると人間としてだらしくなると思う。5限後ならいいと思う。
- ×飲んだら騒ぐ人もいるだろう。もし騒がれでもしたら、楽しく食事をしている人の迷惑にもなるし、メリットよりデメリットのほうが多いと思われる。
- ×先輩が買って来て未成年に飲ませるかもしれないから。
- ×大学は勉強やサークル等、色々なことができる所だが、勉強・研究する場である以上、注文できる環境は不要だと思います。
- △（その他：目的や飲酒する人の年齢が確認できればOK）
- △（その他：休日などのみ販売）部活・サークルの後、飲みたくなると思うから。

（2009年6月29日実施 回答者41名）

1. 大学の中でアルコール飲料を販売するのは、

a. いいことだ	4名	9.7%
b. よくないと思う	28名	68.2%
c. その他	9名	21.9%

2. 大学内の食堂などで、アルコール飲料を注文できるようにするのは、

a. いいことだ	1名	2.4%
b. よくないと思う	36名	87.8%
c. その他	4名	9.7%

1. の理由より：

○「いいことだ」 ×「よくない」 △「その他」

- 別にアカン理由はないと思う。
- 実際に今でも大学の中でお土産品として酒類が売られていることがあるし、コンビニで売られているものも条件としては同じであり、問題ない。
- 生協でアルコール飲料を販売することをとめても、近くのコンビニなどでアルコール飲料は売られているので、たいした効果はないと思うから。
- ×アルコールは居酒屋など飲む場所をわきまえるべき。騒ぐ人が出てきたり自動車と自転車の衝突や自動車と歩行者との事故もでる。
- ×昼間から飲もうと言い出す人も大学には居る。その人間が静かに飲むという保障がない。
- ×もし誰かが飲みすぎた場合に他の人に影響することがある。アルコールの味に苦手な子がいると思う。授業中先生たちはアルコールを飲む人を理解できるか。
- ×大学とは学びの場であると思う。未成年と成人の学生が混ざっているため、成人のみ販売するのは難しい。
- ×学校は勉強する場であり、酒を飲んで陽気になったり酔っ払ったりして、勉強に集中できなくなるから。
- ×大学が飲酒を推奨している感じをうける。販売するなら意識喚起が必要。
- ×北大は観光客や幼児が散歩にくるのに、そういう人たちの前で飲むと印象が悪くなるし、学生から見ても不愉快だから、それを引き起こすような行為はやるべきではない。
- ×酔った北大生による破壊行為や迷惑行為が多数発生している。自制が期待できない以上、せめて学内では控えさせるべき。
- ×講義前に飲酒する恐れもあるのでは。

- ×新歓やその他の場面でのお酒の問題増加につながる可能性がある。
- ×学生はまだ酒の飲み方がわからないから。
- ×友達同士の集まる場なので、ハメをはずした飲み方がなされる可能性。貴重な資料、器具や実験中の物がたくさんある場なので、脳が麻痺した状態の人が入りやすい状況にすると危ない。
- ×お酒を飲むときと飲まないときのメリハリがつかなくなりそう。
- △授業後のジンパ等で飲むのには問題ない。自己判断で購入し、飲む場所を気にすれば。
- △いつもじゃない。講義後とか、休日はいいかもしれない。
- △学祭での販売。樽商での学祭では、北大ほど規模は大きいわけではないが酒類を販売し来客者はとても楽しそうにしていた。
- △自動販売機やコンビニで酒が打っているぐらいなので、大学の中で酒を売っていても今までも変わらない。
- △大学の中でアルコール飲料を販売することで学生がアルコールについて考える機会が増える。
- △もう大学生なんだから、買う買わないの判断は自分ですればいい。そういう選択肢があってもいい。
- △ジンパなどをするために肉を売っているが、その肉などと一緒に買えるならよい。
- △ジンパなどをするために箱単位で売分には便利。
- △必ず身分証明書の提示などを求めれば便利になっていい。きちんとルールを守ればやってもいい。

2. の理由より

- 注文できる状態は日常的飲酒につながる訳ではなく、コンパ目的と考える。年齢確認、意識喚起が必要。
- ×食堂が騒がしくなり、喧嘩をする人もでてくと思う。
- ×必要性がないと思うし、居座ってしまう人間が出てくる。
- ×注文できればみんな食堂にアルコールを飲む可能性があると思う。飲みすぎる可能性。授業への影響。
- ×講義があるのに飲む人が必ず出てくる。
- ×酒の力で友達と楽しく過ごせるのはよいが、飲みすぎて酔っ払って喧嘩が起こったりしたら困るから。

- ×アルコールを身近に感じてしまう機会が増えてしまうと思う。
- ×食堂は学生が食事をして栄養を得る目的であると思うので、それを行うのは目的から外れている。
- ×帰り道、自転車などに乗る人が多い中では、あまり好ましくない。不特定多数の人がいる環境ではトラブルも増えてしまうのではないかな。
- ×絶対未成年も注文してしまう。
- ×酒臭いのがきらい。
- ×静かに食事したい人や勉強したい人も食堂を利用するので、飲んで騒がれたら迷惑。
- ×年齢確認をする手間がかかる。年齢確認をしても食事の席で先輩に手渡る。
- ×飲み会やる人が増えたら食堂が騒がしくなって、ただ食事をしにきた人に迷惑。
- ×昼休みなどに食堂でアルコール飲料を飲むことで頭が回らなくなり、午後の授業に影響が出る。
- ×大学は居酒屋じゃない。
- ×食堂で注文できるようにすることは、販売することよりも積極的であると思う
- ×大学は勉強するところだから。
- ×酔った人と一緒に食事をするのは怖い。
- ×食堂はバーではない。また、時間的にも適切ではない。
- ×単純に学校にアルコールは必要ないと思う。
- ×友達同士で集まって飲むようになり、お酒が飲めない人、あまり飲みたくない人にとってはつらい状況が発生する可能性。
- △大学には未成年者もいるので、注文が色々面倒になりそう。

以上が、受講者の大学内における酒類の販売と提供についての声である。「問い」では「生協」という文言を使用していない。しかし、受講者が書いた「食堂」とは、北大の場合、生協食堂のことであることは言うまでもない。この結果を発表した際、受講者から担当者である筆者の意見を求められた。大学生が、酒類の販売及び提供を「いい」と思うか、「よくない」と思うかを、問うていながら、筆者の考えは、実は「いい」か「よくない」かではなく、販売・提供、どちらを行うにせよ、販売にたずさわるもの、提供にたずさわるものの姿勢を明確にせよ、というものである。例

えば、大学生協に関わるものは、酒類及び飲酒者による行為が、組合員すなわち出資者に及ぼす影響をどこまで想定しているだろうか。さらに、生活協同組合とは何がを思い出すとき、酒類の販売・提供に関して、「組合員一人ひとりが主人公」とうたうのであれば、上にあげたような受講者の声を参考にしてきたのかという点が重要であると考えられる。そして全国大学生協のイッキ飲み防止キャンペーンのようなイベントも意義深いものであると思うが、加えて、各大学生協、例えば、北大生協では過去から現在までの飲酒事故をどのように参考にしておいて個別の取り組みをしてきたのだろうか。また、イッキ飲み以外にも長期的に飲酒を続けることによりどのような影響が生じ得るかを、飲酒を定期的に始めるものが多い十代後半の組合員に伝えてきたのだろうか。

3. 生協の社会的取り組みとしての消費者教育

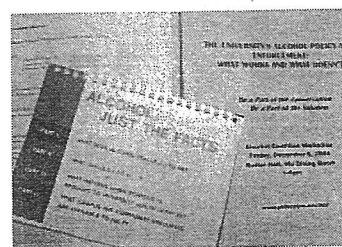
さて、2008年版の『生協の社会的取り組み報告書』に「コンプライアンス推進から内部統制、社会的責任経営へ」という文言を見出すことができる¹⁴。企業や団体の社会的責任、いわゆるCSR活動はいまや優良企業及び組織に欠かせない、消費者の信頼を獲得する重要なカードであるといえるだろう。

酒類に関していえば、酒類製造販売を行う民間企業各社はCSRの一環として、適正飲酒教育教材の開発を行っている。ビデオ、DVDから小冊子まで、その形態は様々である（資料12）。大学新入生への書類一式の中にこのような小冊子が含まれることも多い。筆者はこれらをご提供いただき、講義「社会問題としての飲酒」の教材として配布し、受講者らと分析を加えるなど活用している。

国外の例になるが、アメリカのプリンストン大学では他大学のように大学独自のアルコール問題関連ポリシーを掲げ、適正飲酒教育に力を入れている¹⁵。さらにALCOHOL: JUST THE FACTSと題する小冊子を作成し、飲酒事故防止



資料 12



資料 13

にあたっている（資料13）。学生が飲酒問題に直面した際の学内連絡先等も示されており、このようなきめ細かい情報は大学単位のエデュケーションに負うところが大きい。2009年11月、筆者はプリンストン大学 Alcohol Coalition Committee（アルコール関連問題委員会〈拙訳〉）の主要メンバーに話を伺う機会を得た。「なぜ、多くの薬物が問題になっている今、『アルコール』のみに注目するのですか」という筆者の問いに対する回答は単純明快であった。「一番身近な、合法薬物であり、身近であるだけに大小様々の多くの問題が実際に大学生に生じているから」。これはまさに筆者の主張に重なる¹⁶。ゲートウェイドラッグ（入門薬物、他の薬物使用の入り口となる薬物）の代表格は酒類（アルコール飲料）とたばこである。入手が比較的容易で、合法という点では、同様の扱いを受けてよいはずだが、この二つの入門薬物に対する日本社会の受けとめ方は大きく異なる。たばこにはタスポのようなシステムが導入され、公共の場での全面禁煙化が推進されている。しかし、酒に同様の措置が取られていないことは言うまでもない。筆者は「酒」という薬物に影響を受ける人間と社会に注目し、「飲酒へのあいまいな姿勢が多く、社会問題の背景にある」と発信してきた。さて、大学生協を含む生協が酒類の取り扱いに

¹⁴ 日本生活協同組合（2008）『生協の社会的取り組み報告書』、日本生活協同組合渉外本部、pp.14-15

¹⁵ www.princeton.edu/acc プリンストン大学 Alcohol Coalition Committee

¹⁶ 眞崎睦子（2009）「若者と薬物：飲酒に甘い社会が入り口に」、『朝日新聞』2009年5月1日朝刊「私の視点」

関して行ってきたことは不十分であった、とは結論づけない。それどころか、生協は酒類の「表示」に関して、酒類業界に先がけて「消費者への情報提供」という消費者教育を実現してきたという歴史を有する¹⁷。このような品質表示内容の充実が酒類だけではなく他の食品等多くの業界に影響を与えたことは言うまでもない。その一方で、生協というブランドのもとで酒類を販売・提供する際、生協が掲げる理念は、その販路拡大ほどには見えてこない。

「社会問題としての飲酒」の受講者からは、過去に「飲酒に関する教育」を受けた記憶がないという声が多く聞かれた。さらに、「確かに、学校で飲酒に関する教育の時間はあったが、プリントの配布程度で、具体的ではなかった」という意見もあった。「飲酒に関する大学生の意識調査」で、多くの回答者（2009年93.7%）が、「あなたは学校教育の中でアルコールに関する教育が必要だと思いますか」という問いに「はい」と回答している背景にはこのような事実がある。また、多く聞かれたのが、「学齢期の早い段階から適正飲酒教育を開始し、また、それは「継続的に」「定期的」に行われることが望ましい」という声であった。彼らのような組合員に継続的な消費者教育、情報提供を行うことができるのが、大学生協を含む生協ブランドのネットワークではないだろうか。大学生の多くが「はじめに」であげた地域生協などの支援を受けながら成長してきたからである。

『北大生協創立五十年史』に「生協は教育の場である」という一文が掲載されている¹⁸。「大学内の購買事業を信用ある店に請け負わせたほうが楽な道かもしれない」としながらも、「お互いの生活を守ることを一つのルールの中で語り合う」ことに意義がある、という内容である。大学生協は大学ではない。そして企業でもない。しかし大学生協でなければできない、あるいは生協だからできる酒販売及び提供についての取り組みと理念ある姿勢に期待したい。

主要参考文献

- アルフレート・A・ヘスラー（山下肇・山下萬里訳）（1996）『ミグロの冒険』、岩波書店
- 全国大学生生活協同組合連合会（2009）『大学生協 REPORT 2009』、全国大学生生活協同組合連合会
- 全国大学生生活協同組合連合会（2008）『大学生協ハンドブック—大学生協を深く理解したい人に』、全国大学生生活協同組合連合会
- 日本生活協同組合（2008）『生協の社会的取り組み報告書』、日本生活協同組合渉外本部
- 日本生活協同組合連合会（1985）『COOP 酒類運動の歩み』、日本生活協同組合連合会・虹の宴全国酒類協同組合
- 北海道大学生生活協同組合 編（2009）『2009 年度総代ファイル』、北海道大学生生活協同組合
- 北大生協学生組織委員会 編（2008）『北大生の生活 2008』、北海道大学生生活協同組合
- 北大生協創立五十周年記念史編集委員会 編（2004）『北大生協創立五十年史』、北海道大学生生活協同組合
- 眞崎睦子（2007）「日本の大学生と飲酒に関する一考察—『飲酒に関する大学生の意識調査（2003年）』より」、『The Northern Review』第35号、pp.55-64
- 眞崎睦子（2007）「北大生101人と飲酒」、『北海道大学大学院教育学研究院紀要』第103号、pp.112-126
- 眞崎睦子（2009）「若者と薬物：飲酒に甘い社会が入り口に」、『朝日新聞』2009年5月1日朝刊「私の視点」
- ご協力いただいたみなさま（順不同）
アサヒビール株式会社社会環境推進部 小沼克年様
公益財団法人 生協総合研究所 栗本昭様
公益札幌連合断酒会・家族会のみな様
全国大学生生活協同連合会 蓮見様（ビデオ資料「大学生協 One Step For The Future」のご提供）
東京大学消費生活協同組合 小林茂雄様・柏木浩樹様
日本生活協同組合連合会 商品本部加工食品部酒類担当 鎌倉俊明様
北海道大学生生活協同組合 今川則生様・河野厚司様
北海道大学主題別科目「社会の認識」—「社会問題としての飲酒」受講者のみな様
Alcohol Coalition Committee, Princeton University

上には、直接インタビュー等に応じてくださったみなさまのお名前をあげさせていただきました。他にも生協総合研究所の鈴木岳様、林薫平様をはじめ多くの皆様方にお世話になり、教育・研究のヒントをいただきました。ここに改めて感謝の意を表します。ありがとうございました。

¹⁷ 日本生活協同組合連合会（1985）『COOP 酒類運動の歩み』、日本生活協同組合連合会・虹の宴全国酒類協同組合

¹⁸ 北大生協創立五十周年記念史編集委員会 編（2004）『北大生協創立五十年史』、北海道大学生生活協同組合、p.78